

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

新型コロナウイルス感染症拡大のため延期された東京オリンピック。今日24日は開会式だった。だが新型コロナウイルス感染による

世界規模の経済の混乱、そして甚大な被害を発生させた豪雨などで日本国民を不安な気持ちに包み込んでいた中、将棋の藤井聡太七段が17歳11カ月の最年少で「棋聖」のタイトルを獲得した面白い話題が注目された。

閉塞感の漂う雰囲気  
を打破する若きリーダーの誕生に、これからの日本の活気ある新時代の幕開けに心が揺さぶれた。感染症拡大の影響での「巣ごもり生活」の4月中旬からの2カ月間について「自分の将棋としっかり向き合うことができた」の言葉が強く印象

に残る。生活が激変する中でも、何事にも前向きに捉える事の大切さを、多くの人達に伝えた。将棋のルールに疎い私にも、藤井新棋聖のこれからの活躍が楽しみになってしまう。

## 太陽の恵みの有難さを改めて感じる

毎日、太陽が雲で隠れ、陽が地表に当たらない状態が続いている。この日照不足が影響して全国的に野菜の生育に遅れが出ている。水稲や野菜は、根から水分を吸収して、葉が二酸化炭素を取り込み、太陽の光を浴びること成長する。そのため、成長過程で太陽の光は無くしてはならないものだ。

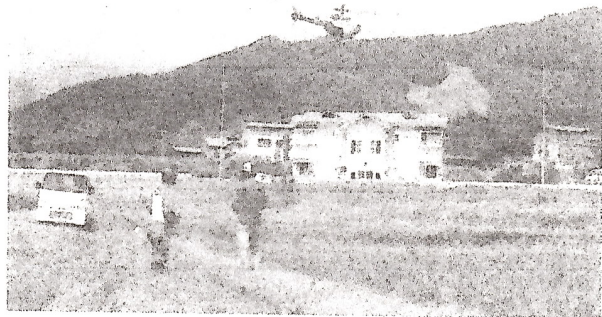
周囲の水稲経営者からは、「穂の出る今後2週間の天候に期待したい」との声。また長野県は、米粒に斑点ができる「斑点米」の原因となる斑点米カメムシ類が多く発生し、水稲への被害拡大が懸念される。また「畑が水浸しで、根腐れ病など苗が育たない野菜が多い」「直射日光を好んで日陰では育たないと言われる陽性植物が今年には特に

除草の徹底を行っているが、出穂以降に水田に進入する厄介なカメムシに、地域で初めて一斉防除を計画している。取り組みに効果が出ることを期待したい。

自家用野菜を栽培している現場から「日照不足により、葉物野菜の葉の色が悪く、規格外の野菜が多く出てしまつた。畑が水浸しで、根腐れ病など苗が育たない野菜が多い」「直射日光を好んで日陰では育たないと言われる陽性植物が今年には特に

悪い」との声。陽性植物のナス・カボチャ・キュウリ・キャベツは1日約6時間、半陽性植物のレタス・ジャガイモは1日約3時間から4時間ほどの直射日光が必要だ。人間にも野菜にとって、今年は厳しい年なのかもしれない。

(NPO法人信州地域社会フォーラム会員)



水稲の穂肥作業に活躍するドローン。日照不足が及ぼす影響が心配になる